

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「いのちに仕える宣教共同体の一人として」

—ご復活の喜びを分かち合うイースターを前に—

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

感染症や災害によって不安な生活を余儀なくされている方々、戦火におびえるウクライナの方々、支援活動をされている方々、私たちの生活に必要な働きに従事されている方々を覚え、お祈りしたいと思います。

さて、先月号の『管区事務所だより』に、2023年11月の宣教協議会のニュースレター「ぶどうの枝だより」を同封させていただきました。本来は今年の11月の開催を予定していましたが1年の延期を決断し、情報発信を丁寧に行ない広く日本聖公会に属するみなさまとキャッチボールをしながら、本番に至るまでのプロセス自体も宣教協議会と位置付けて準備を進めています。管区事務所のホームページにも実行委員会のブログ等も含めてご案内していますので、どうぞご覧いただき、お一人おひとりが日本聖公会の宣教の担い手であるという思いで、ご意見やご提案などを実行委員会までお寄せいただければと思います。各教会にあっては、信徒の皆様にも広くご案内くださり、関心を持っていただけるようにご配慮をお願いいたします。カテゴリーごとの「ぶどうの枝分科会」も管区諸委員会編、青年担当者編など関連施設のみなさまも含めて、オンラインを駆使しつつ実りと課題を共有しながら歩んでいきたいと思います。

前回2012年の宣教協議会のテーマは、「いのち尊厳限りないもの—宣教する共同体のありようを求めて—」でした。2011年の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故という大きな経験から紡がれたテーマですが、現在にも通じる大切なテーマです。新型コロナウイルス感染拡大、入管施設での人権侵害、度重なる災害と支援活動、ロシアによるウクライナ侵攻、平和と武力、核の課題、環境問題を含む地球規模の取り組みであるSDG's、ジェンダーや人種差別の課題、信徒・教役者の減少からの宣教体制の立て直しなど、様々な課題があります。また、東アジアのアングリカン・コミュニオンで初の女性の主教接手、コロナ危機の経験によって劇的な変化を遂げたWeb環境の活用や財政的な課題など、日本聖公会の中でも大きな転換期を迎えていると思います。

今年の大斎節のテーマ聖句は、「人の子が、仕えられるためでは

## □会議・プログラム等予定

(2022年3月25日以降・前回未掲載分)

### 3月

- 25日(金) 教役者給与タスクフォース会議 [+Web]
- 28日(月) ハラスメント防止・対策担当者打ち合わせ [Web]
- 31日(木) 第67(定期) 総会第1回書記局会議 [+Web]

### 4月

- 2日(土) ハラスメント防止・対策担当者会 [Web]
- 4日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]
- 4日(月) 常議員会 [+Web]
- 4日(月) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 7日(木) 管区会計監査 [+Web]
- 20日(水) 人権問題担当者会 [Web]
- 20日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [Web]
- 22日(金) 臨時主教会 [北海道]
- 23日(土) 北海道教区主教接手・就任式 [北海道+ Web]
- 27日(水) 正義と平和委員会 [+Web]

### 5月

- 13日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [+Web]
- 31日(火) 臨時主教会 [市ヶ谷]
- 31日(火) ~ 6月2日(木) 第67(定期) 総会 [市ヶ谷]

### <関係諸団体会議・他>

- 3月25日(金) 聖公会生野センター30周年記念事業委員会
- 28日(月) ~ 31日(木) 首座主教会議 [ロンドン+ Web]
- 4月5日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]

(次頁へ続く)

† 4月14日(金) は受苦日のため管区事務所は業務を休業いたします。よろしくお祈りいたします。

### ※管区事務所の就業時間

当面の間、新型コロナウイルス対策のため、就業時間を平日(月曜日～金曜日) 10:00 ~ 16:30 といたします。

なく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」(マタイ20:28、聖書協会共同訳)です。東日本大震災被災者支援「いっしょに歩こうプロジェクト」の働きの中で、「助けを必要とする人たちの必要を丁寧に聴き、応えていく中で、イエスさまの姿を何度も見た、圧倒的に悲惨な状況の中であって、それ“にもかかわらず”、神さまの福音を伝えていく使命を私たちは持っているのだ」というお話が今も思い起こされます。私たちが生きている世界で起こる一つひとつの現実、決して他人事では済ませられない、神さまからのメッセージです。この世の様々な現実の中で、助けを必要としている人々に寄り添ってくださる方のみ心に向き直って生きる、悔い改めの心を常に忘れずに歩みたいと思います。

私たちの罪を背負って十字架にかかってくださったイエスさまの姿を思い起こしながら、大齋節を過ごし、復活の喜びを分かち合うイースターを迎えましょう。

(前頁より)

- 11日(月) ACT ジャパンフォーラム運営委員会 [Web]
- 12日(火) NCC 役員会 [Web]
- 18日(月) キリスト者平和ネット運営委員会 [+Web]
- 19日(火) 「同宗連」総会 [京都]
- 19日(火) WCC ワークショップ企画実務会議 [Web]
- 21日(木) 日本キリスト教連合常任委員会・総会 [Web]
- 26日(火) NCC 役員会・常議員会 [Web]
- 5月16日(月) 部キ連総会 [+Web]

## □各教区

### 東北

- ・東日本大震災11周年の祈りと講演会 2022年3月11日(金) 録画の視聴をご希望の際は専用URLをご確認ください。



<https://onl.la/PzGDpTc>

### 九州

- ・聖職按手式 2022年4月29日(金・祝日) 11時～ 日本聖公会九州教区 主教座聖堂 福岡聖パウロ教会 司式: 主教 ルカ武藤謙一 説教: 司祭 ミカエル李 相寅 司祭按手志願者: 執事 セシリア塚本祐子

## □神学校

### ウイリアムス神学館

- ・2022年度入学礼拝 2022年4月6日(水) 11時～ 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 司式: 主教ステパノ高地敬(京都教区主教) 説教: 司祭ヨハネ黒田裕(ウイリアムス神学館長) 入学予定者: ヴェロニカ薦田久美子(大阪教区)



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

主教 ヤコブ宇野 徹(大阪教区・退職 主教 日本聖公会第17代首座主教) 2022年3月8日(火) 逝去 (83歳)

司祭 サムエル森 忍(ブラジル聖公会・退職) 2022年2月20日(日) 逝去 (93歳)

東日本大震災11周年記念の祈り 特別プログラム

## 東日本大震災後を生きる

東日本大震災発生から、今年で11年を迎えます。東北教区では、犠牲となられた多くのいのちの平安を覚えて、また今もなお悲しみのうちにある大勢の方を覚えて記念の祈りを持ちます。また、今年は記念の祈りとあわせて、震災後福岡県相模原市小高にて会社を立ち上げ活動されている和田智行氏を講師に招き、震災以降の歩みを伺いながら、今私たちに何ができるのか、お話を伺うプログラムを計画しています。この日、この時を心に留めてこれからの私たちの歩みのために祈りを共にすることが出来れば本当に幸いです。

**Speaker**

株式会社小高ワークスペース 代表取締役 和田 智行 氏

福岡県相模原市小高区にて東日本震災に被災し、同地域が原発事故被災地域に指定された行政事務所が1棟建、自らの活動の場を築かれた2014年5月に小高区へ移り「小高ワークスペース」を設立。

原発事故後に感じた「大きな企業に依存せず自立した地域をつくらなくてはならない」という想いのもと、「地域の100の課題から100のチャンスを生み出す」をミッションに掲げ、コワーキングスペースを立ち上げる。飲食や小売店の設置、若者への就業機会のためのガラス工場の設置、地域サービスの発信を目的とした「Threat Commons Lab 避難所」の立ち上げなど、活動は多岐に渡ります。

「くまびんチャレンジアワード2015」特別賞受賞。復興庁「新しい東北」復興・創生賞 創生実践賞。第17回「グローバルズ アルムナイアワード」リジェラル部門受賞。

**Program**

**2022**

**3.11**

**FRI**

14:15 記念の祈り(東北教区内諸教会)

15:15 オンライン講演会

16:45 終了予定

礼拝・講演とともに、東北教区 YouTube にて生配信いたします。

記念の祈り・講演録は、ライブ配信終了後7日間視聴が可能です。 [youtube/9q541v9z78](https://www.youtube.com/watch?v=9q541v9z78)

日本聖公会東北教区 東日本大震災被災者支援プロジェクト

---

 ≪人事≫

## 北海道

司祭 エリザベツ阿部恵子	2022年3月31日付	帯広聖公会牧師及び帯広聖公会幼稚園チャプレンの任を解く。 定年退職とする。
司祭 エリザベツ阿部恵子(退)	2022年4月1日付	帯広聖公会囑託司祭及び帯広聖公会幼稚園囑託チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 フランシスコ飯尾正行	2022年4月1日付	紋別聖マリヤ教会管理牧師に任ずる。
司祭 ヨハネ池田 亨	2022年5月31日付 2022年6月1日付	聖マーガレット教会牧師の任を解く。 小樽聖公会牧師に任ずる。
司祭 ノア上平 更	2022年4月1日付	函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会管理牧師に任ずる。
主教 ナタナエル植松 誠	2022年3月31日付	平取聖公会、新冠聖フランシス教会、函館聖ヨハネ教会、今金インマヌエル教会、紋別聖マリヤ教会の管理牧師、また紋別幼稚園チャプレンの任を解く。 定年退職とする。
司祭 ペテロ大町信也	2022年4月1日付	平取聖公会及び新冠聖フランシス教会管理牧師に任ずる(2022年4月22日まで)
司祭 ヘレン木村タ子	2022年4月1日付	道北分区における協働司祭に任ずる。(任期1年)
司祭 マリア・グレイス笹森田鶴(主教被選者)	2022年4月1日付 2022年4月23日 2022年4月23日付	東京教区より北海道教区に聖職籍を受け入れ、主教座聖堂付とする。(2022年4月22日まで) 主教按手・就任式 平取聖公会及び新冠聖フランシス教会管理牧師に任ずる。
司祭 コルベ下澤 昌	2022年6月1日付	聖マーガレット教会管理牧師に任ずる。
司祭 クリストファー永谷 亮	2022年6月1日付 2022年5月31日付 2022年6月1日付	聖マーガレット教会協働司祭に任ずる。 小樽聖公会牧師及び旭川聖マルコ教会管理牧師の任を解く。 旭川聖マルコ教会牧師及び旭川頌栄保育園チャプレンに任ずる。
聖職候補生 エリサベト三浦千晴	2022年5月31日付 2022年6月1日付	札幌キリスト教会勤務を解く。 札幌キリスト教会協働勤務を命ずる。
司祭 サムエル吉野暁生	2022年4月1日付	帯広聖公会管理牧師に任ずる。
司祭 パウロ内海信武	2022年4月1日付	平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での囑託司祭、またバチラー保育園囑託チャプレンを委嘱する。(任期1年)
司祭 アンデレ甲斐博邦	2022年4月1日付	深川聖三一教会での囑託司祭及び深川あけぼの保育園囑託チャプレンを委嘱する。(任期1年)

---

司祭 ピリポ越山健蔵(退・東北教区)

2022年4月1日付 紋別聖マリヤ教会嘱託司祭を委嘱する。  
(任期1年)

2022年4月1日付 学校法人聖公会北海道学園認定こども園紋別幼稚園園長を委嘱する。(注:教区人事ではなく学校法人人事)

司祭 ミカエル広谷和文(退)

2022年4月1日付 旭川聖マルコ教会嘱託司祭及び旭川頌栄保育園嘱託チャプレンを委嘱する。(2022年5月31日まで)

司祭 ダビデ藤井八郎(退)

2022年4月1日付 函館聖ヨハネ教会での嘱託司祭及び今金インマヌエル教会での協働嘱託司祭を委嘱する。  
(任期1年)

### 東北

司祭 ヨハネ八木正言

2022年4月1日付 東京教区からの転入を許可する。

司祭 パウロ松本正俊(退・中部教区)

2022年4月1日付 司祭ヤコブ林国秀のもとで、小名浜聖テモテ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

主教 ヨハネ佐藤忠男(退)

2022年4月1日付 司祭フランシス長谷川清純のもとで、青森聖アンデレ教会および弘前昇天教会において礼拝協力を委嘱する。また司祭ステパノ越山哲也のもとで、大館聖パウロ教会において礼拝協力を委嘱する。(任期1年)

主教 ヨハネ加藤博道(退)

2022年4月1日付 司祭ヨハネ八木正言および司祭ドミニコ李贊熙のもとで、仙台圏における礼拝協力を委嘱する。  
(任期1年)

司祭ドミニコ李贊熙のもとで山形聖ペテロ教会において礼拝協力を委嘱する。(任期1年)

<信徒奉事認可および分餐奉仕許可> 2022年2月16日付 (任期1年)

(仙台基督教会)

セント・クリストファー赤坂聖矢、バルナバ赤坂有司、ステパノ西重明、パウロ福士正明、グレース山崎梨可

<信徒奉事認可> 2022年2月16日付 (任期1年)

(仙台基督教会)

ラケル中村みどり、マルタ目黒かおり、バルナバ吉村哲夫、マーガレット若生伸子

### 北関東

司祭 パウロ藤井文宏

2022年3月31日付 願いによって退職を許可する。

### 東京

主教 アンデレ大畑喜道

2022年2月27日付 インマエル新生教会での主日勤務を命ずる。

司祭 ヨハネ八木正言

2022年3月31日付 日本聖公会東北教区への出向を解く。

2022年4月1日付 日本聖公会東北教区への移籍を許可する。

司祭 アモス金 大原	2022年4月1日付	大韓聖公会ソウル教区より日本聖公会東京教区への入籍を許可する。
司祭 シモン林 永寅	2022年4月1日付	大韓聖公会ソウル教区より日本聖公会東京教区への入籍を許可する。
司祭 ナタナエル池 星熙	2022年4月1日付	大韓聖公会ソウル教区より日本聖公会東京教区への入籍を許可する。
司祭 ヨハネ塚田重太郎	2022年4月1日付	立教女学院非常勤チャプレンに任命する。
<b>横浜</b>		
司祭 マルコ河崎 望(退)	2022年4月1日付	主教イグナシオ入江修管理のもとで横浜聖クリストファー教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 ステパノ岡野保信(退)	2022年4月1日付	主教イグナシオ入江修管理のもとで茂原昇天教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
執事 ヨナ眞栄田 肇(退)	2022年4月1日付	司祭バルナバ田澤利之のもとで福田聖公会において囑託執事として勤務することを委嘱する。(任期1年)

## &lt;信徒奉事認可&gt;

(松戸聖パウロ教会)

ミカエル溝田悟士

2022年3月8日付(任期1年)

(川崎聖パウロ教会)

マッテヤ田島利男

2022年4月14日付(任期1年)

**京都**

司祭 ルカ柳原健之	2022年3月31日付	福井聖三一教会管理の委嘱を解く。
司祭 テモテ内田 望(大阪教区)	2022年3月31日付	岸和田復活教会管理の委嘱を解く。
主教 ステパノ高地 敬	2022年4月1日付	福井聖三一教会及び岸和田復活教会の管理を委嘱する。
司祭 マタイ古本靖久	2022年3月31日付	西大和聖ペテロ教会管理の委嘱を解く。
司祭 ブリスカ中尾貢三子	2022年4月1日付	西大和聖ペテロ教会の管理を委嘱する。
司祭 アンデレ小松幸男(退)	2022年4月1日付	司祭ヘレナ古本みさのもとで、菰野聖マリア教会(伝道所)において、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 モーセ石垣 進(退)	2022年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、岸和田復活教会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 テモテ宮嶋 眞(退)	2022年4月1日付	大阪教区からの要請を受け、桃山学院に囑託のチャプレンとして出向することを許可する。(任期1年)
司祭 バルトロマイ三浦恒久(退)	2022年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもとで、新宮聖公会において囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)



司祭 アンデレ江渡由直(退)	2022年4月1日付	主教ステパノ高地敬のもと、桑名エピファニー教会および四日市聖アンデレ教会において、囑託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
クララ小野恭子	2022年4月1日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
<b>大阪</b>		
司祭 ジョージ林 正樹	2022年3月31日付	大阪聖ヨハネ教会牧師の任を解く。定年により退職とする。
司祭 ジョージ林 正樹(退)	2022年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖ヨハネ教会囑託(定住)を委嘱する。(任期1年)
主教 アンデレ磯 晴久	2022年4月1日付	大阪聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。
司祭 ヤコブ松平 功	2022年4月1日付	桃山学院教育大学チャプレンに任命する。(任期1年)
執事 ウィリアム ヒューム ユーワン	2022年4月1日付	桃山学院教育大学チャプレン補に任命する。(任期1年)
司祭 フランチェスコ成岡宏晃	2022年4月1日付	プール学院チャプレンに任命する。(任期3年)
司祭 ペテロ金山将司	2022年4月1日付	川口基督教会勤務を命じる。(週2日)
	2022年4月1日付	プール学院チャプレン補に任命する。(週2回・任期1年)
主教 サムエル大西 修(退)	2022年4月1日付	中部教区からの要請を受け、中部教区内各教会において主日礼拝等への協力を許可する。(任期1年)
司祭 ダニエル山野上素充(退)	2022年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ岩城 聰(退)	2022年4月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会囑託、および司祭ヨシュア原田光雄のもと聖ルカ教会囑託、並びに司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ竹林徑一(退)	2022年4月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会囑託、司祭フランチェスコ成岡宏晃のもと大阪城南キリスト教会囑託を委嘱する。また京都教区からの要請を受け、第4主日京都教区内教会において主日礼拝等への協力を許可する。(任期1年)
司祭 ペテロ齊藤 壹(退)	2022年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖三一教会(定住)囑託、司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会囑託、並びに、博愛社、聖バルナバ病院、こひつじ保育園チャプレン(囑託)を委嘱する。(任期1年)

- 司祭 施洗者ヨハネ山本 眞 (退) 2022年4月1日付 主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会、尼崎聖ステパノ教会囑託，および司祭テモテ内田望のもと堺聖テモテ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
- 司祭 ヨハネ木村幸夫 (退) 2022年4月1日付 主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会囑託を委嘱する。(任期1年)
- 司祭 ウィリアムス竹内信義 (退) 2022年4月1日付 司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会囑託を委嘱する。(任期1年)

### 九州

聖職候補生 パウロ中山泰男 2022年2月21日付 日本聖公会聖職候補生の認可を取り消す。

\*お詫びと訂正：『管区事務所だより第373号』

#### 《人事》

**東京** 司祭 ペテロ井口 諭 (正) 2022年4月1日付 (誤) 2021年4月1日付

**神戸** 司祭 バルナバ永野拓也 (正) 2022年4月1日付 (誤) 2022年4月1日付

以上、お詫びして訂正いたします。

## 日本聖公会東北教区・吉田雅人主教による配信 2022/03/17

### 主の平和

昨夜の福島県沖(宮城県沖)の地震ではご心配をおかけしています。

まだ全貌がわかっているわけではありませんが、教区の災害対応デスク担当者が、最初の調査をしてくれましたので、現在分かっている範囲でお知らせいたします。

人的被害はありませんでしたが、教会と関係幼保育園に以下のような被害が報告されています。

なお、加藤主教様はじめ、仙台市内在住の退職教役者の皆さまもご無事でした。

(2022/3/28現在)

教会関係	
仙台基督教会	物の落下、クラック等あり、管理会社が確認中。
仙台聖フランシス教会	物の落下程度
釜石神愛教会	礼拝堂後方の壁に物が当たり穴が開いた。
室根聖ナタナエル教会	外壁に多数クラックあり。
福島聖ステパノ教会	内外壁に多数クラックあり。
郡山聖ペテロ聖パウロ教会	物の落下、破損等。
磯山聖ヨハネ教会	洗礼盤の破損、内部クラック、敷地内地割れ等あり。

幼稚園／保育園関係	
聖クリストファ幼稚園(仙台市)	物の落下、破損等。予定していた一日入園中止。
聖ルカ幼稚園(仙台市)	天井ボードの落下、窓ガラスの破損等あり。予定していた修了式中止。
みその幼稚園(福島市)	天井・外壁クラック、門扉・堀にひび割れ、トイレ水漏れ等あり。
セントポール幼稚園(郡山市)	天井落下、内壁クラック、その他多数被害あり。予定されていた修了式中止。

地震の影響があったであろう北関東教区やその他の教区の皆様の上に、神様のお護りをお祈りいたします。

## 日韓合同主教会を開催

—2月24日、オンラインで3時間余にわたって—

首座主教 ルカ 武藤謙一

2月24日(木)18時より3時間余、日韓合同主教会がオンラインで開催されました。

日韓両聖公会は互いに主教按手式には出席することになっていますが、コロナ禍の中2020年10月に行なわれた中部教区主教按手式・教区主教就任式には大韓聖公会の主教たちは出席できず、お互いに顔を合わせたのは2019年1月に行なわれた東京教区主教按手式・教区主教就任式以来、本当に久しぶりに両聖公会の全教区主教が顔を合わせる機会となりました。ちなみに両聖公会合同主教会は2014年10月、日韓宣教協働30周年記念大会後に済州で行なわれて以来のことです。

大韓聖公会からは大韓聖公会議長主教・ソウル教区主教 李 京浩(イ・ギョンホ)主教、大田教区主教 兪 樂濬(ユ・ナクジュン)主教、釜山教区主教 朴 東信(パク・ドンシン)主教、教務院長 崔 俊基(チェ・ジュンギ)司祭が出席され、日本聖公会からは各教区主教と総主事の矢萩新一司祭が出席、卓 志雄(タク・ジウン)司祭、金 大原(キム・デウオン)司祭が通訳者として協力していただきました。

### 日韓聖公会の現状を分かち合う

コロナ禍の中でも日韓協働委員会は日韓聖公会とのオンラインによる合同会議を開催し、情報交換や協議を行なっていますが、両聖公会の主教たちが顔を合わせるのは3年ぶりですので、今回の合同主教会は両聖公会の各教区、管区の現状について情報を分かち合うことを主な目的として開催されました。

### 大韓聖公会の現状

大韓聖公会各教区の現状については、ソウル教区、大田教区、釜山教区とも新型コロナウイ

ルスの感染予防のため公開の礼拝や集会ができなくなっている状況のなかで、各個教会、信徒が孤立することのないように典礼・司牧に関して様々な取り組みがなされています。ソウル教区では緊急支援基金募金を実施して30以上の教会に支援金を送る、また洗礼・堅信準備の動画や聖書学校の動画の作成・配信を行なっています。大田教区では信仰的なつながりを強化するために、同じ祈りや聖歌を用いる取り組みがなされ、釜山教区オンラインによる礼拝、読書会、教義教育、朝禱会、教役者会が行なわれているとのことでした。教務院長からは大韓聖公会全国議会(総会)について報告があり、2018年の第32回全国議会では、全国常任委員会の信徒代議員の3分の1以上を女性とすること、倫理委員会が設置されたこと、2020年の第33回全国議会では、130を超える社会宣教機関の監理と支援のため教務院に社会宣教局を設置し、施設長に対する「チャプレンシーアカデミー」訓練を実施すること、今年開催される第34回全国議会では、管区設立30周年を迎えるにあたり「3教区の一一致」に力点を置いて議論を進めること、聖職の延長教育(継続教育のこと)が主要テーマの一つとなるとのことでした。また、2月に新たな済州(チェジュ)教会建設のため土地を購入したとの報告もありました。

各報告は通訳も含めて概ね10分という限られた時間でしたが、コロナ禍の中、ITの活用が進んでおり、熱心に牧会・伝道に励まれている様子が伝わってきました。

最後に崔教務院長から日韓宣教協働30周年記念大会共同声明にある済州教会についてこれまでの経過報告と「日韓友情教会」としての宣教



ビジョンについて説明されましたが、すでに予定の時間を超過しており、十分な話し合いをするには至りませんでした。

### 更なる交流と宣教協働を願って

1974年から始まった両聖公会の公式な協働関係を通して大韓聖公会はわたしたちにとって親しい友人であり、かけがえのない宣教のパートナーです。10年ごとに開催される記念大会の共同声明に基づいて、青年や女性の交流、また社会宣教の学び、世界聖公会平和協議会、大韓

聖公会からの宣教協働者の招聘など様々な取り組みを通じて交わりを深め、平和の器として共に歩んでいます。今回の合同主教会では話し合うことができませんでしたが、2024年には日韓宣教協働40周年記念大会が開催される予定です。

コロナ禍の中で互いに行き来することが困難な状況ですが、今後もさまざまなレベルでの両聖公会の交流、宣教協働がなされることを願っています。

2022年 沖縄週間 / 沖縄の旅に向けて

オンラインで  
実施

## 主題聖句：互いに愛し合いなさい

正義と平和委員会・沖縄プロジェクト 司祭 サムエル 小林祐二

2018年に行なわれた日本聖公会第64(定期)総会は、『「沖縄週間」継続の件』を可決しました。この議案は「2019年から2022年までの毎年、沖縄慰霊の日(6月23日)を含む1週間を「沖縄週間」とし、沖縄の宣教課題を具体的に共有する祈りやポスターなどを作成して全国の諸教会で用いる。」と定めています。沖縄週間は、沖縄教区の置かれている沖縄の現実、特に正義と平和に関する課題を日本聖公会全体の重要な課題として広く共有することを目的として、1995年から継続されてきました。

沖縄の統治が日本に返還され50年、また、米国聖公会沖縄伝道教区が日本聖公会沖縄教区となって50年を迎えました。プロジェクトでは昨年「次の沖縄週間/沖縄の旅ではこの節目に焦点を当て、是非沖縄で対面開催したい」と話し合ってきました。

しかし、新型コロナウイルスによるパンデミックは新年早々に第6波に入り、3月後半の今でも予断を許さない状況が続いています。また2月24日にはロシアのウクライナへの軍事侵攻が始

まり、3月初旬のプロジェクト会議は今までにない重い空気となりました。沖縄週間/沖縄の旅の開催形態についてはもちろん、あるメンバーの「チェルノブイリの悲劇を知っているというのに、なぜ原発を攻撃対象にできるのか。沖縄戦の悲劇をいくら伝えても、響かない人がいるのではないか…」という言葉に表れるように、メンバー皆が「正義と平和」の重さとそれを実現することの困難を感じながら、なんとかして言葉を見つけようとしていました。このようななか、会議は長い沈黙を経て、本年の沖縄週間/沖縄の旅について以下のように計画しました。

主題聖句：互いに愛し合いなさい

(ヨハネ13:34)

日程：6月22日(水)および23日(木)の  
それぞれ19時から

開催形態：オンライン

第6波が収束したとしても第7波に至る可能性が否定できず、また公共交通機関が必須となるプログラムを全国に呼びかけるのはリスクが高いとの判断から、一昨年、昨年に続き3回目のオン

ライン開催です。「オンラインだから参加できた」とおっしゃる方も多くおられました。状況によっては、地域毎に集まって接続する方法も可能かもしれません。メリットや可能性をさらに引き出したいと思います。

テーマや内容の詳細はまだ出揃っていませんが、まずはいわゆる“本土返還”を実体験された方々から生の声を聞かせていただきたいと考えています。遠方の方、初めての方、幅広い年齢の方々にご参加いただけるように、また沖縄に行かれずウズウズしているの方々のご参加も期待しつつ、沖縄の空気感を共有する時間も持つことができるとと思います。詳細は後日発送・配信するポスターや案内用紙をご覧ください。

なお、沖縄週間は6月19日(日)～25日(土)となります。プログラムへのご参加が難しくとも、沖縄に心を向け、平和を求める祈りのうちにご一緒いただければ幸いです。

ウクライナでは、5月に結婚式を挙げる予定だった若いふたりが式の予定を早め、ロシア軍

が侵攻を開始した日、サイレンの鳴り響くキエフの修道院で挙式しました。「私たちは死ぬかもしれない。だからそうなる前に、ただ一緒にいたかった」「防具を与えられて戦闘に行くかもしれない。何かほかの支援をするかもしれない」と語りました(CNN)。太平洋戦争に出兵した若い兵士たちのこと、沖縄で昔のことを聞かせてくれたおじい・おばあへの悲しみを思い出します。

「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。」(創1:27)とあります。人が互いのうちに神様の像を見失い、互いに愛する者としてではなく破壊すべき敵として交わることは、この創造のみ業を否定します。洗礼のとき「神によって造られたこの世を墮落させ破壊するすべての悪の力」に対し「神の助けによって戦います」と誓約した(祈禱書p.278)わたしたちは、今、どのように生きることが求められているのでしょうか。このプログラムを通じ、皆さんの答えが少しでも導かれたなら幸いです。平和を祈りつつ、準備を進めて参ります。

## ■ミニ講演会

### 「日本聖公会における女性の司祭按手実現とジェンダー状況の変遷」に参加して

正義と平和委員会・ジェンダープロジェクト クララ篠田 茜

3月3日、日本聖公会女性に関する課題の担当者と正義と平和委員会・ジェンダープロジェクト主催で開催された講演会は、「ミニ」講演会というタイトルとは反対に、参加者は、オンラインで66名、YouTubeでの視聴者が19名、関心と期待の高さが伺える講演会となりました。

#### 〈女性の司祭按手の歴史とそれを支えたもの〉

講師である京都教区の三木メイ司祭は、キリスト教主義学校で長年キリスト教教育を担当してこられました。女性の司祭実現のための活動も、その初期から担ってこられました。

日本聖公会で女性の司祭が初めて按手されるのは1998年ですが、1985年日本聖公会婦人会が主教会宛に、女性の司祭の必要性を記した書簡を提出し、1986年に「女性司祭について考える委員会の設置」の議案が管区総会に出されたのが、女性司祭の課題が公になった最初でした。しかし総会ではなかなか注目されない中で大きな役割を果たしたのが、1988年に東京で始まった、女性たちの集まりである「女性が教会を考える会」です。1989年9月に教会の中のジェンダーの問題に関心をもつ各地の女性たちが集まって

話し合い、祈りの会、講演会、聖公会女性フォーラムなどを開催し、課題を共有し活動を展開していきました。1990年5月の管区総会で「女性聖職の実現を促進するための委員会」設置を求める議案と、管区の委員に女性を複数選出するための議案が、東京教区と京都教区の代議員から提出され、「女性が教会を考える会」のメンバーも傍聴者として発言し、議案は一部修正（「促進」を「検討」に）された形で可決しました。この時からやっと、公的に賛否両論の議論やアンケート調査などの検討作業が始まることになったとのことです。

三木司祭は、女性たちの草の根的な運動を支えたものとして、男女雇用機会均等法の制定、1960年代後半からの第二波フェミニズムの影響や国連の活動、1990年代初期のアメリカ聖公会の女性の主教、司祭や、イギリスの大主教からのメッセージなどととも、シスターフッドが強められていったことを挙げられました。それは“井戸端会議”的な女性たちの自由な語り場において、教会の制度や慣習の中のジェンダー格差についての疑問が分かち合われ、変革の必要性の確信が共有されていく中で育まれたものでした。

#### 〈笹森田鶴司祭から〉

応答者としてご参加いただいた笹森田鶴司祭は、中部教区の渋川良子司祭に続いて、1999年1月に同じ東京教区の山野繁子司祭とともに司祭按手を受けられましたが、女性の司祭が実現するまでの道のりが本当に長く苦しいものだったこと、その長い道のりの中で、按手が有効であるかないかをめぐり痛みや、当時まだ女性の司祭が実現していなかった大韓聖公会の女性の聖職の方々の痛みと涙は忘れることができないと語られました。

また笹森司祭は、2016年に始まった「女性の聖職に関わる諸問題についての調整と検証・提言作成のための特別委員会」の課題であった「女性司祭の実現に伴うガイドライン」（1998年の管区総会で可決、承認されたもの）を見直す作業もまとめ役として担っておられ、そのときの委

員会の痛みにも触れられました。わたしもその委員会のメンバーのひとりでしたが、ガイドラインをめぐる立場の異なった人々が集まるのですから、委員会はいつも緊張した雰囲気だったことを思い出します。しかし笹森司祭のお話のとおり、相手の話に耳を傾け思いを分かち合ったときから、雰囲気が変わっていきました。

笹森司祭はまた、このようなたくさんの物語が、神の物語の中に献げられ歴史となり、これからも続いていくこと、「女性が教会を考える会」のビジョン\*は未だ色褪せず、ジェンダー平等や、ともに神と人に仕える一人ひとりによって、教会の働きが広がっていくものであること、この長い道のりを神が導いてくださったことを賛美したいと話されました。

- \*1. 教会のすべての働きに男女の別なく神の召命に応答する道が開かれること。
2. 教会形成の中で、聖職と信徒がそれぞれに、より積極的に創造的に協働できる道が開かれること。
3. 社会、教会の中で、弱い立場に置かれている人々と共におられる神に仕えるために、教会が新しい命と力を与えられること。

現在、聖職者および補佐の教役者は約230名、女性はその12%ほどです。4月23日に北海道教区で、日本を含む東アジアで最初の女性の主教被選者となられた笹森田鶴司祭が主教に按手されます。始まりの年1985～86年、そして1998年を経て、2022年、立場の違いを抱えながら、多くの人が共にした痛みや忍耐、勇気が結実されてここに至ったことを、神に感謝し、覚えたいと思います。



## ■特別記事

## 最近のカルトの動向について

## — オンラインによるカルト団体の働きかけに対する取組みを —

日本聖公会管区事務所 宣教主事 司祭 ステパノ卓 志雄

コロナ禍によってわたしたちの生活は変わった。マスク、消毒液、コロナ感染者数情報、ソーシャルディスタンスなどは生活においてなくてはならないものになっている。またコロナ禍以前から導入を検討していたがあまり活用されなかったオンライン会議も、ビジネスの道具として浸透した。

## 〈実際にあった、教会へのアプローチ〉

教会においてもオンライン礼拝、オンライン家庭訪問、オンライン聖書会、オンライン交わりなどコロナ禍以前には想像できなかったことが今では当たり前になっている。コロナ禍による大きな変化の中に生き、互いに集まり合うことが難しい状況の中で、オンラインという方法が大きな役割を果たしている。しかし、その便利さを逆手にとって、カルトと呼ばれる団体もまた、社会の変化に沿って素早く自分たちの活動を広げようとしている。去年の秋、日本聖公会東京教区の教役者Aさんから以下のような相談のメールがあった。

去年9月頃からqingxiaofuという人から「初めまして。インターネットで検索して、教会の情報を見つけました。最近聖書を読んでいます。教会に行った事はまだありません。一回でもオンライン礼拝に参加してみたいです。教会に行く場合はどうすればよいですか。もしかしてオンライン配信礼拝がありますか。ご確認宜しく願い致します。」というメールが届いた。その後「Zoomで話を聞きたい、礼拝のYoutubeを見たらとても良かった、知人に紹介をしたら関心をもっている、一緒に先生のお話を聞かせて欲しい」という連絡が来て、話し合うためにZoomミーティングに

招待した。

しかしZoomミーティング時間直前に「どうしてもZoomに入れないので、こちらのZoom IDで入ってもらいたい」とURLが送られてきてZoomミーティングに参加すると、qingxiaofuという女性と、他に二人がすでにスタンバイしていた。一人は宣教のために来日した韓国の長老教会の男性伝道師だと自分を紹介し、もう一人は通訳の女性だという。伝道師を名乗る男性が韓国語で話し、もう一人の女性が通訳し30分ほど話しを聞いた。結局、qingxiaofuと名乗る女性とは、一言も話ができなかった。

## 〈伝道師を名乗る男は…〉

伝道師を名乗る男性は「宣教のために日本に来たがコロナになり、オンラインで聖書の会を始めた。沢山の人が集まった。しかし、コロナが落ち着いたので韓国に帰ることになり、オンラインの会に参加していた皆を日本の教会に繋げたい。そこで、皆が良いと思う教会に連絡をそれぞれに取ってもらった。」と説明したが、話の内容に疑問を感じ質問をしても明確な回答は得られなかったとのことだった。

Zoomミーティングの際、「3つの説教を送るので、そこにコメントを寄せてほしい」と言われ後日データが送られてきたのだが、韓国のあるカルト集団の手法と似ていると感じ返事はしなかった。その後、再びqingxiaofuと名乗る女性からメールが届いた。しかし、それまでと違い、接触していると思われる教会・牧師(日本基督教団、ルーテル、ローマ・カトリックなどを含む19の宛先)が宛先に入っていた。メールには「おはようございます、牧師先生。お願いしたい事があり



ます。韓国の友達から送ってもらったYoutubeセミナーがありますが、私は良くわからないので牧師先生が見て簡単にコメントをお願いします。」そして貼り付けてあるURLを開いてみると、新天地イエス教のイ・マンヒ氏の説教ライブ配信だったので、教役者Aさんはすぐに画面を閉じて「新天地イエス教はキリスト教ではありません。韓国でも非常に危険とされているカルトです。すぐに離れてください。気をつけてください。」と返事をしたそうだ。

### 〈新天地イエス教の危険性〉

東京教区の教役者Aさんからの相談を受け、すぐに他教派の担当者と連絡を取ったが、ほぼ同じ手法で複数の新天地の担当者が既成教会に接近をしていたことが明らかになった。そこで日本聖公会のすべての教会と関連施設に注意喚起メールを送った。その全文は以下の通りである。

#### 【新天地に関する注意喚起】

新天地(新天地イエス教証拠幕屋聖殿)は韓国で猛威をふるっている乗っ取り型カルトです。大韓聖公会にも接近してきましたが、徹底的に防ぐことができました。日本でも被害を受ける教会が出てきました。2021年1月感染症予防法違反や横領などの容疑で懲役3年、執行猶予4年の有罪判決が出ている教祖李萬熙(イ・マンヒ)が創設した黙示録解説を中心とした教義のグループです。

日本でも東京、大阪、福岡などで活動しています。心理テストや文化交流会を装い正体と目的を隠して勧誘し、厳しい訓練を受けた信者は既成教会の熱心な信者のように装い、三～十年潜伏します。十分に信頼を得た上で、その教会の牧師を解任し、役員を追い出し、新天地の牧師を連れて来て教会の財産と信者をまるまる奪っていく手法のカルト団体で様々な問題が指摘されています。

何年前かは「聖書のすべての秘密が解明された」などと称して表立った活動にも着手しています。特に、HWPL(Heavenly Culture, World

Peace, Restoration of Light:(社)ハヌル文化世界平和光復)という組織を設立し、国際平和運動を推進しているかのような偽装団体を立ち上げ、海外への進出を取り図っているため、警戒しなければならないと思います。

最近、「新天地イエス教会」のオンラインセミナーの案内が、日本基督教団、福音派の教会にもメールや電話で届いています。

この団体のセミナーに参加すると、自分も取り込まれたり、「教団の牧師も参加している」と宣伝されて、世間への信頼獲得を手伝ってしまう可能性があります。もし、電話や訪問で参加を呼びかけられた場合、「基本的にNCCに加盟している教会と交流しているので、それ以外の交流は遠慮しています」などと断って、様子を見るようにしてください。どうぞよろしくお願いします。

2021年10月19日

日本聖公会管区事務所

そして2021年11月22日「カルト問題キリスト教連絡会」と「日本基督教団カルト問題連絡会」も「カルト団体のオンライン活動への喚起(新天地・グッドニュース宣教会)」の声明文を発表して、

「多くの教会から報告されているオンラインセミナーへの勧誘については、留学生を名乗る人物がオンライン礼拝をおこなっている教会に対して、電話もしくはメールで、友人の韓国人宣教師があなたの教会へ宣教の手伝いをしたいといった内容のことを伝え、オンラインセミナーへの参加を促すといった内容です。その際に、自分たちが何者であるかを明らかにせず、韓国主要教団名を名乗って近づこうとします。カルトの特徴として『自分たちの身分を隠し、偽る』というものがありますが、まさに新天地はカルトの特徴を有していると言えるでしょう。」と、注意を促した。

オンラインは、足を運ぶことなく、自宅でインターネットの環境さえ整っていれば参加すること



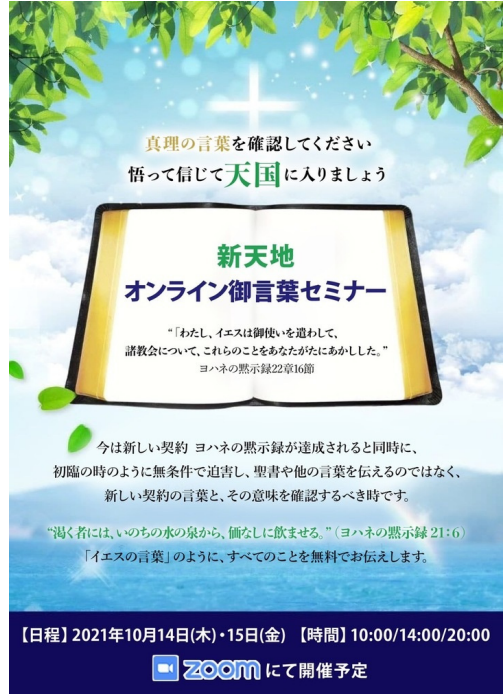
ができる。カルト集団は対面教会活動が厳しい状況の中で霊的に渴いている人々に対してオンラインの有用性を用いて巧みに勧誘している。またそれは対面によるカルト団体の活動に巻き込まれ霊的・金銭的な被害に遭う恐れもある。そしてカルト団体は既存教会からも参加者があったことを、人々を信頼させるための広告塔として利用される可能性もあるので、興味本位で参加することは大変危険であることを教会・施設の中で確認し、日本聖公会に連なる一人一人の体と心と魂を守らなければならない。



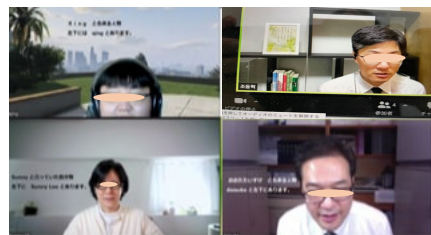
9月25日に催された「ここでしか知れない聖書の秘密」と題するオンラインセミナー  
(キリスト新聞社 2021年11月1日)



新天地イエス教のイ・マンヒ総会長  
(キリスト新聞社 2021年11月1日)



オンラインを用いて誘惑している新天地のコンテンツ  
(キリスト新聞社 2021年11月1日)



Zoom ミーティングの招待を受け参加すると、Zoom には複数の知らないひとひとがすでに入っていた。  
(日本聖公会東京教区教役者 A さん提供)

**2023 年版「聖公会手帳」・事業紹介への出稿についてのお願い**

「聖公会手帳」では巻末の特集欄で、日本聖公会が幅広く関わる学術・教育・文化・医療・福祉などの諸分野にわたる社会的活動を〈事業紹介〉として掲載してまいりました(2022「聖公会手帳」382～410頁を参照)。現在編集中の2023年度版「聖公会手帳」では、この

〈事業紹介〉の趣旨に賛同し出稿していただける事業所を新たに募集しております。記事掲載の申し込み・詳細等について管区事務所にお問い合わせください。2022年7月15日までにお願いいたします。☎ 03 - 5228 - 3171 (総務主事宛)

## 世界の聖公会の動向

- ☆ヨーロッパ教区主教がウクライナでの「不当かつ攻撃的」な戦争を非難
- ☆カンタベリー大聖堂の首席司祭が退任へ
- ☆トンガ復興の長い道のり
- ☆カンタベリー大主教がパキスタンのキリスト教徒を訪問
- ☆新たな性別を祝福する試用版が採用される

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

### ○ヨーロッパ教区主教がウクライナでの「不当かつ攻撃的」な戦争を非難

**英** 国聖公会ヨーロッパ教区主教のロバート・イネス師は、先日のロシアによる侵攻を受けて、ウクライナにおける「完全に不当で攻撃的な戦争」を非難し、キリスト教徒に向けて平和への祈りで団結するよう呼びかけた。

ロバート主教は、この状況を「非常に深刻な問題」と表現し、ロシアのプーチン大統領による侵攻決定はウクライナ正教会を含むキリスト教指導者たちから非難されており、多くのロシア人もこの動きを「深く嘆く」ものであると述べた。

カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師とヨーク大主教スティーブン・コッレル師は共同声明で、ロシアによる「恐ろしい、いわれのない攻撃」を「巨悪の行為」と呼び表わした。ロバート主教は、アングリカン・コミュニオンは、ウクライナの首都キエフにある聖公会のクライスト・チャーチのメンバーを含む戦争の犠牲者に特別な憂慮を抱いていると述べた。さらにロバート主教は語った。「軍事行動に直面し、私たちは無力感や恐怖を感じやすくなっています。しかし、私たちにできることの一つは、祈ることです。最も影響を受けている人々と連帯して祈ることができるのです。私たちは、神が権力や権威を持つ人々の心を支配してくださるよう祈ることができるのです。犠牲者が少なくなるように、

そして罪のない人々が守られるように祈ることができます。私たちは正義によって平和が訪れ、強い者の意志が弱い者に押し付けられることがないように祈ることができるのです」

カナダ聖公会のリンダ・ニコルズ大主教は「どんな戦争も、関係するすべての人に計り知れない苦痛と荒廃をもたらします。この戦争も同様です」と述べ、「このいわれのない侵略を速やかに終わらせる」ための祈りを呼びかけた。

### ○カンタベリー大聖堂の首席司祭が退任へ

**カ** ンタベリーの首席司祭であるロバート・ウィリス師は、75歳の誕生日の前夜である2022年5月16日午前0時に主席司祭を退任すると発表した。

ロバート司祭長は2001年7月に就任、コロナウイルスによるパンデミック時には、カンタベリー大聖堂の執務室から毎日の朝の祈りのビデオを配信し、世界中のオンライン視聴者に親しまれてきた。

カンタベリー大聖堂は、アングリカン・コミュニオンの「母教会」として多くの人に親しまれており、世界中から巡礼者が訪れている。大聖堂では、コミュニオンの各地から新主教が集まる会議が開催される。大聖堂の床には、世界中に福音を広めるアングリカン・コミュニオンのシンボルであるコンパス・ローズが埋め込まれている。

英国聖公会の聖職者の定年は70歳だが、ロバート司祭はカンタベリー大主教から、教会法で認められている最高年齢である75歳まで在職することを許可されていた。

ロバート司祭は、今年後半にカンタベリーで開催されるランベス会議の計画と準備、特に大聖堂で行われる会議前のリトリートで積極的な役割を果たしてきた。

2013年にカンタベリー大聖堂でロバート司祭の就任式を行なったカンタベリー大主教は、以下のコメントを発表した。「ロバート司祭は、カンタベリー大聖堂の礼拝、祈り、証しの生活を創造性と想像力をもって監督され、戦後最も優れた司祭の一人です。彼は大聖堂だけでなく、カンタベリー教区、英国聖公会、アングリカン・コミュニオン、そして遠く離れた場所でも深く愛されています」

「パンデミックの期間中、彼は毎日の『朝の祈り』のビデオを通じて、世界中の何千人もの人々にイエス・キリストの慰めと希望を与えてきました。我々は彼がいなくなることを大変残念に思います」

### ○トンガ復興の長い道のり

1月中旬にフンガ・トンガ・ハアパイ火山が噴火して以来、トンガの人々は降灰やそれに伴う津波の影響を受け、コミュニティの土地や家屋、生活は大きな打撃を受けている。

**現**在、人道支援の到着により、トンガに Covid-19 がもたらされ、ロックダウンその他の Covid-19 による制限がある中で、災害復旧を行なう人々や地域の健康管理を行なう人々に、さらなる負担が強いられている。2022年1月初旬、トンガの Covid-19 感染数はゼロだったが、2月14日までに活動による139名の感染者が報告され、その中にはオミクロン株の亜種が含まれていた。

フィジーとトンガにあるアングリカン・ミッションのポリネシア教区パートナーは、すでに水、乾燥食品、子供用品、衛生用品、清掃用具などの

食糧と避難所の物資を配給している。

トンガからの報告によると、地元の人々はすでに驚くべき回復力を示しているが、コミュニティは依然として基本的な物資や不可欠なコミュニティの健康支援を提供するための資金を切実に必要としているとのことである。

ポリネシア教区の開発・人道支援プロジェクト・マネージャーであるカレン・シュート＝デライボニ氏は「今、トンガのコミュニティは、食糧確保に注力している状況のため、修理や再建は長期的な視点で取り組む必要がある」と述べている。

### ○カンタベリー大主教がパキスタンのキリスト教徒を訪問

カンタベリー大主教はパキスタンを訪問し、同国のキリスト教社会への支援を表明した。3日間の訪問中、大主教はキリスト教徒とともに祈り、彼らの体験に耳を傾け、攻撃を受けて悲嘆にくれる人々に慰めを与えた。また、国の指導者とも会談し、キリスト教徒の懸念を問題提起し、パキスタンにおけるすべての人々の宗教と信仰の自由を守ることについて話し合った。

**イ**ムラン・カーン首相との会談で、大主教は、1月にテロでパキスタン（合同）教会の司祭が殺害されたペシヤワール市を訪問したことをカーン首相に知らせた。また大主教は、社会的結束を生み出すことや、特に教育システムにおいて人々の信仰や宗教の自由を尊重することの重要性を提起した。

大主教は、パキスタン（合同）教会の総会議長であるアザド・マーシャル師の招きで同国を訪問し、訪問中は、パキスタンの主教団や、信仰指導者、宗教学者らと共に時間を過ごした。訪問の最後に、大主教は次のように述べた。

「この世界における深刻な問題、苦しみ、紛争、不確実性の時代に、パキスタンの教会の兄弟姉妹を訪問できたことは大きな恵みでした。私たちの世界には希望、回復力、勇気、そして平和への深い献身が必要とされています。それゆえ、パキスタン（合同）教会はパキスタンだけ

でなく、世界への贈り物なのです。私は、最も困難な状況において、彼らがイエス・キリストの愛を証しされていることに感謝します」

### ○新たな性別を祝福する試用版の典礼が採用される

**カ** ナダ聖公会は性別移行に関する祝福を含む、ジェンダーをテーマにした典礼を試験的に作成した。同教会の信仰・礼拝・聖職担当ディレクターは、最終的に認可されれば、アングリカン・コミュニオンでこの種のものとしては初めてになると述べている。

11月6日、総会は、主教会の許可を得て、1年間にわたって、研究、試用、評価、フィードバックのために、「性別移行と承認のための牧会典礼」を採用することを決定した。この典礼には、性転換の過程に対する祝福、性自認の確認、追加の祈りと司牧の祈りの資料、聖書朗読や適切な聖歌の提案が含まれている。

トランスジェンダーのクリスチアンの性別移行

を肯定し証しする典礼は、アングリカン・コミュニオンの多くの管区で行なわれているが、実際には主にローカルや教区レベルで行なわれていると、総会の信仰・礼拝・聖職担当ディレクターのアイリーン・スカリー司祭は指摘する。

2010年の総会決議で、教会に対して「追放された人々を受け入れ、ゲイ、レズビアン、バイセクシャル、トランスジェンダーの虐待や苦悩に立ち向かう」ことが求められたことを念頭に、このグループでは、教会の礼拝生活の観点から、トランスジェンダーの聖公会関係者が何を必要としているかに焦点を当てたと、スカリー師は述べる。

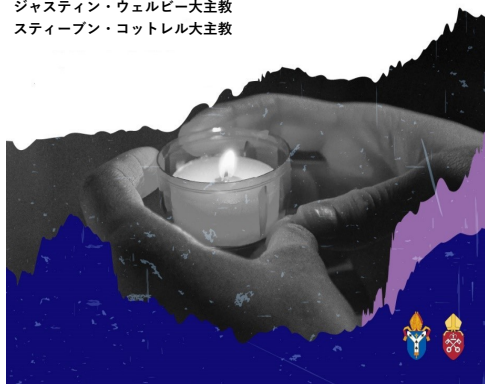
インターレイク地域共有部門のトランスジェンダーの司祭であり、諮問機関のメンバーであるテオ・ロビンソン師は、今回の試用典礼の承認を「完全な包摂への驚くべき前進」と称した。

この「性別移行と承認のための牧会典礼」は現在 [anglican.ca/about/liturgicaltexts/trialuse](http://anglican.ca/about/liturgicaltexts/trialuse) からダウンロードすることができる。

### ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、  
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。  
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。  
明日を恐れるすべての人々に、  
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいように。  
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、  
み旨に邁進へと導かれますように。  
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいる  
あなたの大切な子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいように。  
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。  
アーメン。

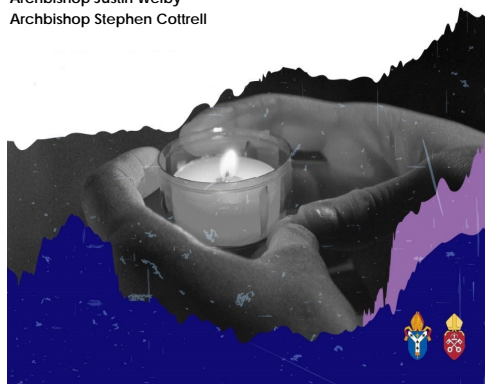
ジャスティン・ウェルビー大主教  
スティーブン・コットレル大主教



### A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,  
we pray for the people of Ukraine today.  
We pray for peace and the laying down of weapons.  
We pray for all those who fear for tomorrow,  
that your Spirit of comfort would draw near to them.  
We pray for those with power over war or peace,  
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.  
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,  
that you would hold and protect them.  
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.  
Amen.

Archbishop Justin Welby  
Archbishop Stephen Cottrell





## 新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

### 北海道教区 原則として礼拝（公禱）を行なうが、各教会で判断

- ・教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行ない、誰でも参加可能。
- ・礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい。

### 東北教区 原則として礼拝（公禱）を再開するが、各教会で状況判断

- ・引続き十分な感染対策を取ること。
- ・各教会衛生対応状況再確認のこと。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- ・警戒は緩めないこと（No.8-2 遵守のこと）。
- ・盛岡聖公会のみ「岩手緊急事態宣言」公禱休止中に従い
- ・礼拝休止の場合は主教に報告のこと。
- ・状況判断により「1種陪餐」も検討のこと。
- ・堅信受領者総会開催については十分な感染予防に徹すること。

### 北関東教区 礼拝（公禱）の再開または休止

- ・各教会・礼拝堂で協議し、地域社会と共同体の状況により適切な対応を講じる。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

### 東京教区 礼拝（公禱）の公開または休止

- ・感染状況の懸念が深まる中、各教会・礼拝堂での礼拝の公開などは、感染防止の対策の上、それぞれの状況に合わせて実施。
- ・幾つかの教会・礼拝堂は公開の礼拝を休止している。

### 横浜教区 礼拝（公禱）の再開を予定

- ・「礼拝指針」（更新・2022年1月版）の徹底。
- ・「新型コロナウイルス感染者発生時の教会対応ガイド」の順守。
- ・在籍外の教会、また教区を越えての礼拝出席は控える。
- ・ウイルスの感染拡大への対応として、それぞれの教会または地域の感染状況により、各教会で礼拝の公開休止の判断をする。

### 中部教区 礼拝（公禱）の再開

- ・主日及び週日の礼拝再開、休止については『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。
- ・緊急事態宣言下のエリアにある教会は原則礼拝等休止。
- ・まん延防止等重点措置の対象エリアにある教会は聖歌の歌唱禁止。

### 京都教区 各教会で判断

- ・緊急事態宣言は解除されたが、引き続き感染防止策は行なう。
- ・主日礼拝の方法は各教会の判断としている。

### 大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- ・各教会の事情には違いがあるので、各教会の判断を尊重する。
- ・リモートの活用などに引き続き取り組む。（リモートが使えない方へ配慮しつつ）

### 神戸教区 礼拝（公禱）の継続または一部は礼拝自粛

- ・教区自粛基準に従って礼拝（一種陪餐、聖餐式前部）を行ない、各教会委員会の判断で自粛している教会もある。

### 九州教区 礼拝（公禱）の一部休止

- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

### 沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- ・まん延防止等重点措置解除後の礼拝の開催方法は各教会の判断に委ねる。

### 管区事務所 勤務体制の変更

- ・1/6より当面の間、平日（月曜日～金曜日）10:00～16:30の勤務時間短縮体制。
- \* 毎月1回、情報更新をいたします。管区のHPにも掲載（英語版もご用意）しておりますので、ご活用ください。

（2022年3月25日現在）



## 共同メッセージ

## 東日本宣教協働区 2021年の振り返りと新しい歩みについて

わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、東日本宣教協働区のすべての人々にありますように。

2020年に開催された日本聖公会第65（定期）総会において、宣教協働区・伝道教区制の議案が提出・可決されました。その提案理由の中で、1990年以降、日本聖公会では聖職教・信徒教・聖職志願者数の減少が著しいという現実が指摘されています。

この法規改正を受けてわたしたち東日本宣教協働区は、「日本聖公会が日本社会における責任ある福音宣教を、今後も継続的・発展的に担い得る器であり続けるために」この時を主が与えたもう大きな転換点と捉え、教区再編、宣教協働の促進に取り組んできました。

北海道教区では、2022年3月31日に植松誠主教の定年退職を控え、2021年11月3日に行われた主教選挙で笹森田鶴司祭が選出され、主教被選者となりました。そして新主教と共に教区再編・協働の業への取り組みを重要課題とすることが確認されました。

東北教区では、2023年3月31日をもって吉田雅人主教が定年退職を迎えられるのに際し、後任の教区主教を選出するか、伝道教区となる道を選ぶか真剣な協議が続けられており、決断にはさらに時間が必要なものの、日本聖公会活性化を目的とする教区再編・協働の業への取り組みは揺らぐことはないのを確認しました。

北関東教区・東京教区では、2021年11月に行われた両教区の教区会において、「北関東教区・東京教区 宣教協働・新教区設立推進に関する覚書」を取り交わし、「北関東教区・東京教区 宣教協働特別委員会」設置の議案が可決承認されました。

今後は、新教区設立を目指した協働を鋭意推進して、2022年11月に行われる両教区定期教区会において、新教区設立推進継続の可否を判断することになりました。

そして、上記の諸課題に鑑み、東日本宣教協働区においては、それぞれの教区の歩みを尊重しつつも、

**第一段階として、北海道教区・東北教区、そして北関東教区・東京教区の二グループで、福音宣教の活性化を目的とする教区再編・宣教協働を推進する**

**第二段階として、東日本宣教協働区の教区再編・宣教協働について取り組んでいく**  
ことを確認しました。

今後とも東日本宣教協働区の歩みをお覚えいただき、皆様一人ひとりの心からのご理解、ご協力をいただけますようお願いいたします。

2022年2月28日

## 東日本宣教協働区

北海道教区宣教協働委員	主教 植松 誠	司祭 大町信也	大友 宣
東北教区宣教協働委員	主教 吉田雅人	司祭 八木正言	赤坂有司
北関東教区宣教協働委員	司祭 矢萩栄司	司祭 鈴木伸明	廣瀬 清
東京教区宣教協働委員	主教 高橋宏幸	司祭 中川英樹	樽谷 雪

管区事務所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

## 日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

### 私たち、日本聖公会はキリスト者としてロシア軍のウクライナ侵攻に 反対し、強く抗議します。

イエス・キリストは世界を平和にするために、自らの命を十字架に掛けられ、敵意という隔ての壁を取り壊し、敵意を減ぼしました。私たちキリスト者は、世界を神の国、平和な国にすることを強く求めます。

今、ロシア軍のウクライナ侵攻により、多くの建物が破壊され、命が失われ、傷ついております。特に、女性、幼子、障害をもった人々は、住む場所を奪われ、逃げ場を失い、恐怖と不安の中に怯えながら、日々を過ごしております。

弱く、小さく、貧しくされた人々が、安心し安全に暮らす日を取り戻すためにも、ロシア軍がウクライナから速やかに撤退し、戦争の恐怖から人々を解放することを求めます。

また、プーチン大統領は核兵器の使用をほのめかす発言をしておりますが、核兵器の使用はもちろん、核兵器使用の発言体許、ウクライナ国民だけでなく、世界の人々を恫喝することであり許されません。特に日本では、第2次世界大戦末期、広島、長崎に原爆が投下され、町が破壊され、多くの人々が尊い命を失いました。そして今も、原爆の後遺症に苦しむ人々が大量おられます。人類を破滅へと向かわせる死の兵器は持つべきではありません。核兵器の使用と使用をほのめかす発言は、人々を恫喝し恐怖に落とすものです。認めることは出来ません。発言の撤回と核兵器使用をしないことを確約して下さい。

太平洋戦争末期、沖縄では4人に1人の住民が命を失いました。その時の教訓として、戦争は残忍で、汚辱にまみれたものであり、戦争を起こすのは人間であるが、それ以上に戦争を許さない努力が出来るのも人間あることを学びました。戦争は愚かなことです。後に残るのは、後悔と憎しみと悲しみの連鎖です。

**1日も早くウクライナからロシア軍を撤退し、戦争を止めることを求めます。**

2022年 3月2日

日本聖公会

首座主教 ルカ 武藤謙一

正義と平和委員長 主教 ダビデ 上原榮正

—The Anglican Church in Japan—

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。